

スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業

令和7年度

テニス環境等実態調査 報告書

令和8年(2026年)3月

公益財団法人 日本テニス協会

スポーツくじ



すべてのスポーツにエールを

スポーツくじの収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。

目 次

1. ご挨拶	2
2. 小学校におけるテニピンの体育授業導入状況調査	3
3. 児童保護者向け調査	15
4. 日本テニス協会 登録選手・公認審判員・公認指導者 登録者数	26
4-1 登録選手	26
4-1-1 プロ登録選手	26
4-1-2 一般登録選手	26
4-1-3 ベテラン登録選手	27
4-1-4 大学生登録選手	27
4-1-5 ジュニア登録選手	28
4-1-6 高校生登録選手	28
4-1-7 中学生登録選手	29
4-2 公認審判員	29
4-3 公認指導員	30
4-3-1 コーチ1～4、テニス教師、テニス上級教師	30
4-3-2 S級コーチ	32
別紙 都道府県におけるカラーボール大会及び普及イベントの取組状況	

1. ご挨拶

平成24年度以降、日本テニス協会はテニス基本データの収集とテニス環境の改善に資する調査を実施し、その結果を「テニス環境等実態調査報告書」として公表しています。

近年、ジュニア世代の選手数が減少する中、本協会では、富士山プロジェクトや普及推進事業によるテニス人口の裾野の拡大に取り組んでおります。その取り組みの1つとしてテニス型授業「テニピン」の小学校への導入拡大を進めており、令和5年度以降、テニピンの認知度と授業導入校の増加状況を継続的に調査してまいりました。令和7年度も引き続き調査を行い、過去2年間の結果との比較を含めて報告いたします。

また本協会では、令和3年度より、全国19,000校の小学校のうち、希望する小学校に対し、抽選によるテニピンハンドラケットセットの無償提供を実施してきました。今回の調査では、これまでに無償提供を受けた学校のご協力を得て、児童の行動変化を追跡し、無償提供がテニス人口拡大にどのように寄与したのかを明らかにするための、テニス実施状況調査も行いました。

本報告書は過去分も含め、本会ホームページでご覧いただけますので、積極的にご活用ください。

最後になりましたが、本調査の実施に当たり、スポーツ環境調査助成事業としてご支援いただいた独立行政法人日本スポーツ振興センター様、各団体登録者数の集計にご協力いただいた関係団体の皆様、そしてアンケートにご回答いただいた全国の皆さまに厚く御礼を申し上げます。

令和8年3月

公益財団法人日本テニス協会
会長 深澤 祐二

2. 小学校におけるテニピンの体育授業導入状況調査

(1) 調査実施概要

調査目的	テニピンが小学校の体育授業にどれだけ導入されているか調査を実施し、未導入の理由や地域を探り、今後の導入促進に向けた施策案やターゲットを探る。 ※テニピンとは： https://fukyu.jta-tennis.or.jp/teniping/about.html
調査対象	全国の小学校の体育課主任または体育の授業内容を把握している教諭（校長・副校長・教頭も回答可とする）
対象校の抽出方法	文部科学省の学校コード（令和7年5月1日時点（確定版））から分校・廃校を除外した18,480校の小学校から1,800校を無作為抽出。
調査方法	郵送依頼・WEB調査 （各対象校に校長宛と体育課主任宛での2種類の調査依頼状を郵送して、WEBアンケート画面からの回答を依頼。）
回答状況	設定数1,800s、有効回答385s 有効回収率21%
調査時期	2026年2月～3月
調査主体	公益財団法人 日本テニス協会
調査実施	株式会社 日本リサーチセンター

都道府県別 母集団数・設定数・回収数・回収率

	母集団	設定数	回収数	回収率(%) (回収数÷設定数)		母集団	設定数	回収数	回収率(%) (回収数÷設定数)
全国	18480	1800	385	21.4	滋賀県	219	22	7	31.8
北海道	908	98	7	7.1	京都府	353	36	7	19.4
青森県	242	28	7	25.0	大阪府	972	105	18	17.1
岩手県	258	24	4	16.7	兵庫県	723	75	14	18.7
宮城県	345	36	9	25.0	奈良県	186	19	4	21.1
秋田県	166	10	2	20.0	和歌山県	230	22	3	13.6
山形県	220	21	3	14.3	鳥取県	112	13	1	7.7
福島県	369	46	7	15.2	島根県	185	15	6	40.0
茨城県	434	32	6	18.8	岡山県	357	39	9	23.1
栃木県	329	25	2	8.0	広島県	453	42	8	19.0
群馬県	294	26	3	11.5	山口県	281	26	6	23.1
埼玉県	787	71	17	23.9	徳島県	179	15	4	26.7
千葉県	754	63	23	36.5	香川県	156	17	4	23.5
東京都	1315	112	20	17.9	愛媛県	271	28	9	32.1
神奈川県	873	86	12	14.0	高知県	215	17	2	11.8
新潟県	424	50	12	24.0	福岡県	695	63	11	17.5
富山県	171	14	4	28.6	佐賀県	148	11	4	36.4
石川県	193	17	4	23.5	長崎県	303	28	3	10.7
福井県	187	22	9	40.9	熊本県	323	41	12	29.3
山梨県	171	21	10	47.6	大分県	247	20	5	25.0
長野県	350	39	9	23.1	宮崎県	227	23	7	30.4
岐阜県	336	28	6	21.4	鹿児島県	467	49	14	28.6
静岡県	476	49	12	24.5	沖縄県	261	28	4	14.3
愛知県	962	88	28	31.8					
三重県	353	40	7	17.5					

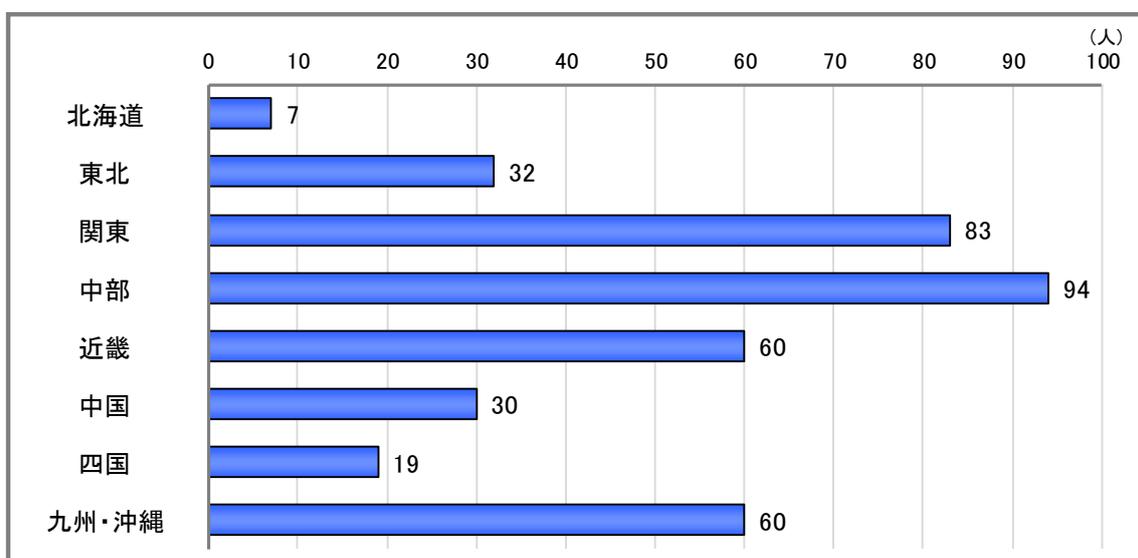
(2) 調査結果の概要

小学校におけるテニピンの体育授業導入状況

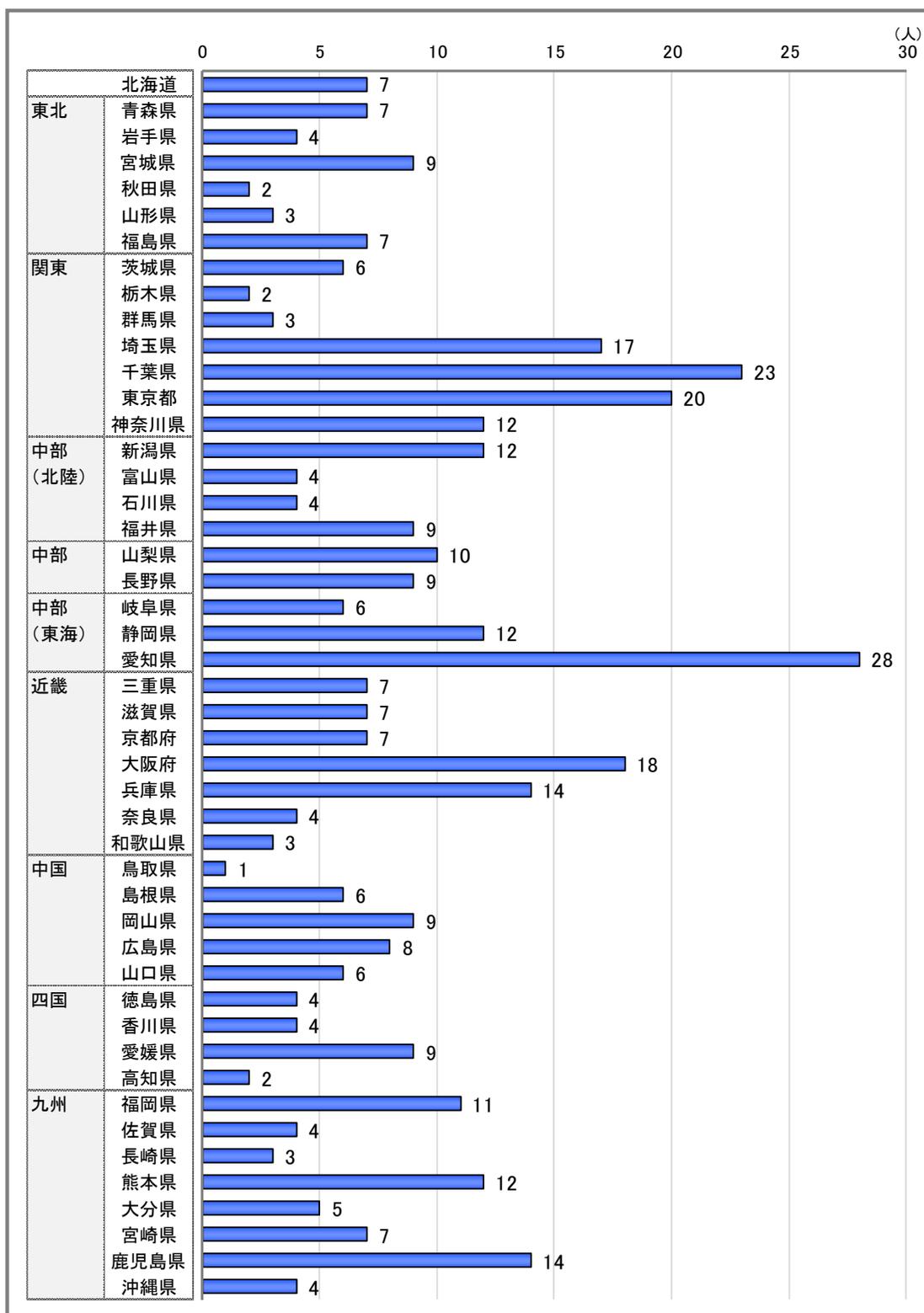
日本テニス協会では、2025年度、全国の小学校から無作為に抽出した1,800校を対象に、小学校におけるテニピンの体育授業導入状況調査を実施した。郵送依頼・WEB調査による調査を実施し、385校の小学校教諭らから回答を得た。

回答のあった全国385校の回答者の属性（地域・都道府県・役職・担当学年・性別）を下記にまとめた。

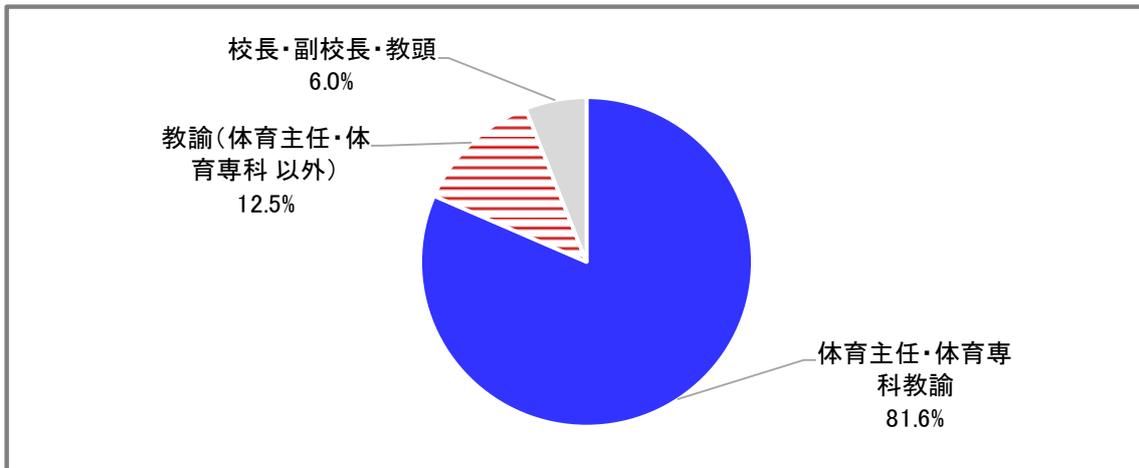
図表 3-1：回答者の属性（地域別）（n=385）



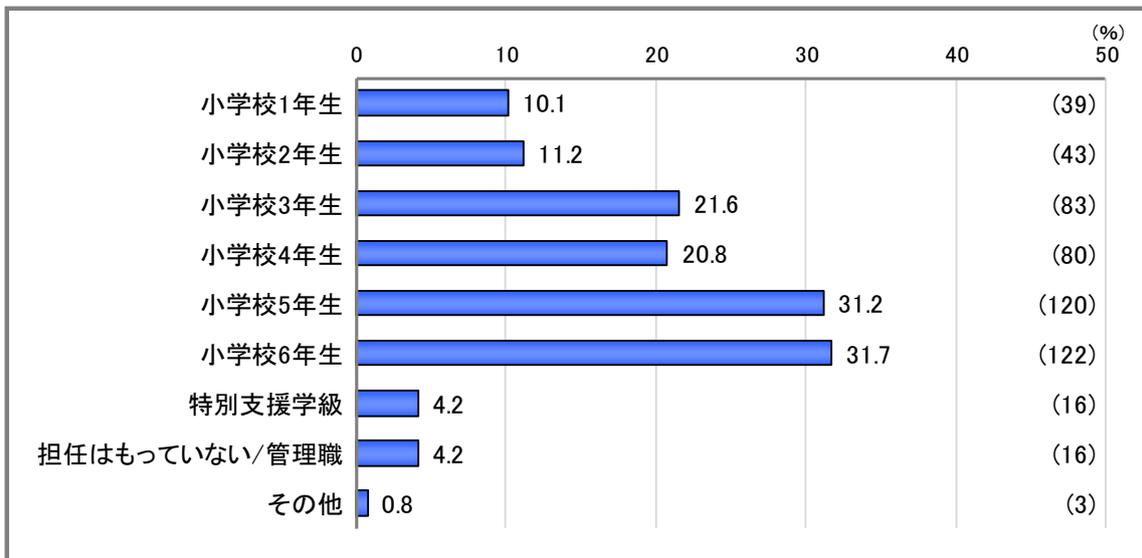
図表 3-2 : 回答者の属性 (都道府県) (n=385)



図表 3-3 : 回答者の属性 (役職) (n=385)

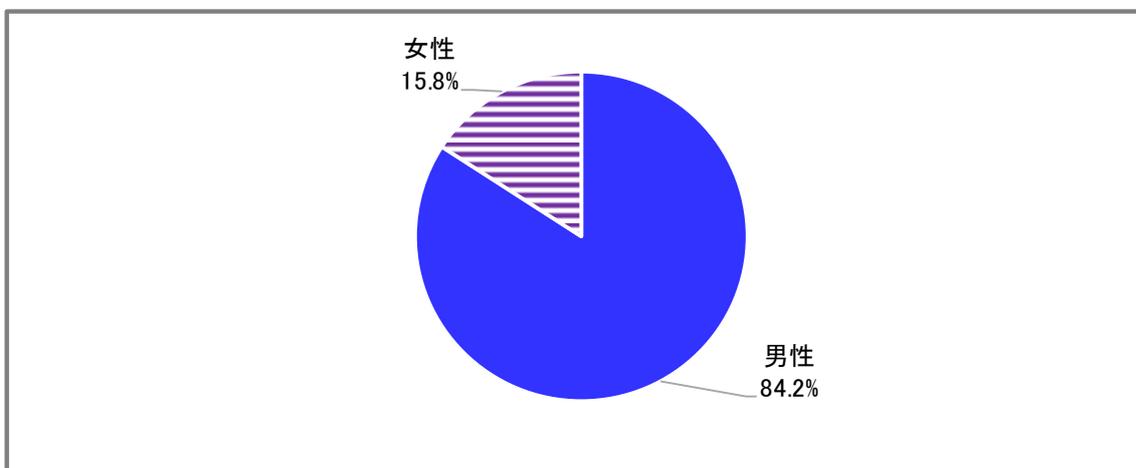


図表 3-4 : 回答者の属性 (担当学年) (n=385)



()内人数

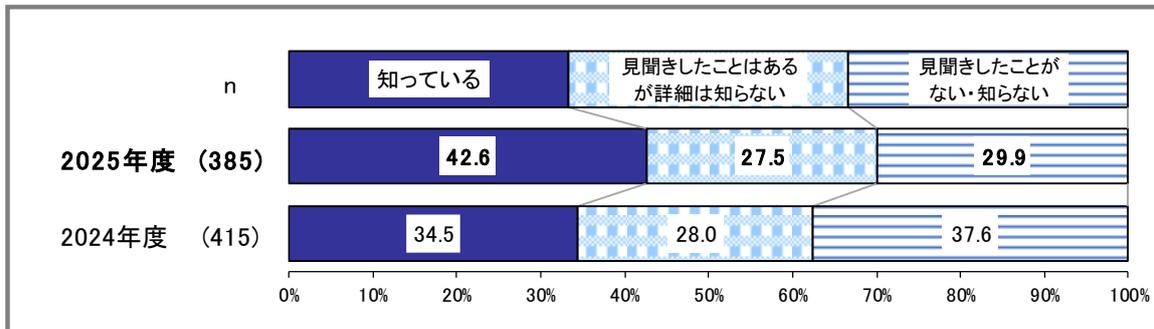
図表 3-5 : 回答者の属性 (性別) (n=385)



テニピンの認知度は「知っている」が 42.6%、「見聞きしたことはあるが詳細は知らない」が 27.5%、「見聞きしたことがない・知らない」が 29.9%であった。前回の 2024 年度調査に比べて「知っている」が 34.5%から 42.6%と約 8 ポイント増加した。

図表 3-6 : 「テニピン」を知っているか (n=385)

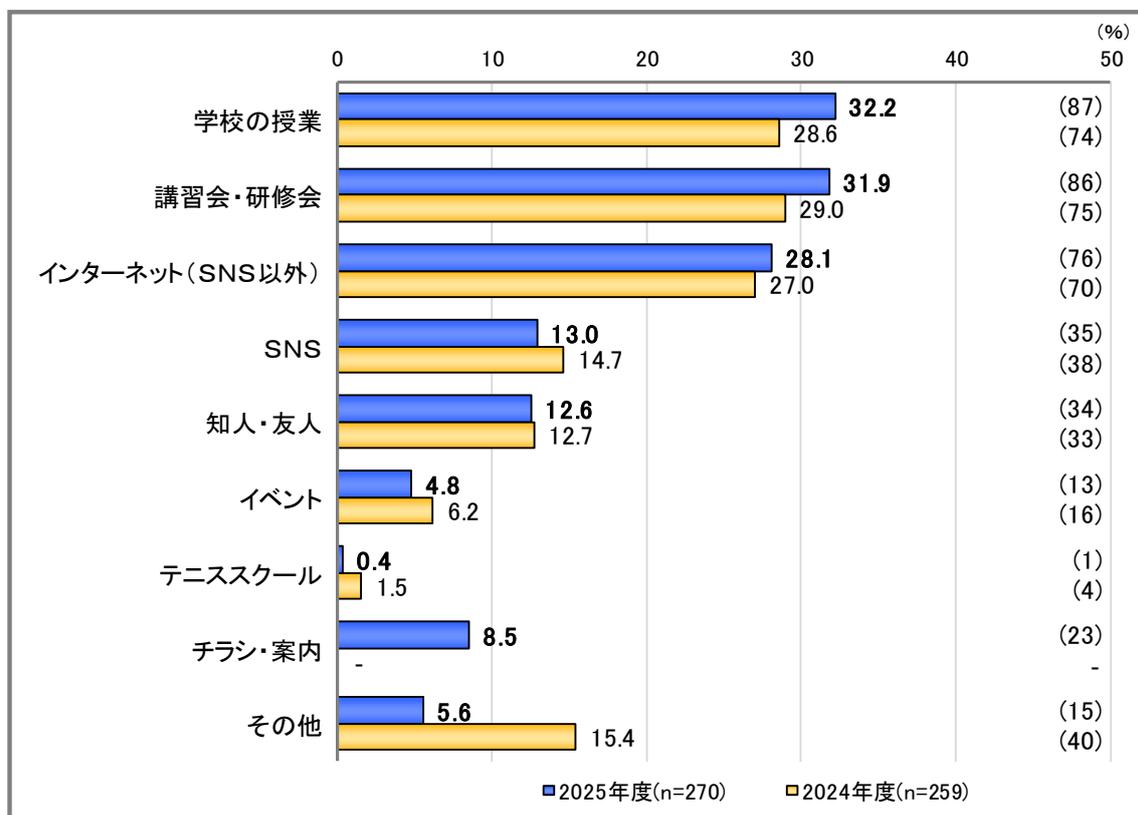
Q 1 「テニピン」を知っていますか？



テニピンの認知者に絞ってテニピンを知ったきっかけを複数回答可でたずねたところ、「学校の授業」(32.2%)、「講習会・研修会」(31.9%)、「インターネット (SNS 以外)」(28.1%) が上位にあがった。

図表 3-7 : テニピンを知ったきっかけ (n=270) ※複数回答可

Q 2 「テニピン」を知っていると答えた方に伺います。どうやって知りましたか？ (いくつでも)

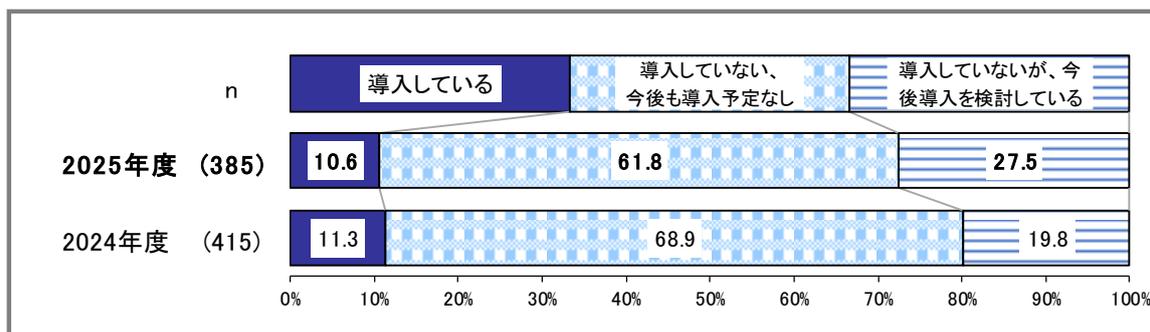


() 内人数

学校の授業にテニピンを導入しているかたずねたところ、「導入している」と回答したのは全体の10.6%であった。「導入していないが、今後、導入を検討している」は27.5%、「導入していない・今後も導入予定なし」が61.8%であった。2024年度調査と比べると、導入率は前回の11.3%とほぼ同水準であったが、導入検討率（「今後導入検討している」）は前回の19.8%から27.5%と約8ポイント増加した。

図表 3-8 : テニピンの導入状況 (n=385)

Q3 「テニピン」を学校の授業に導入していますか？



図表 3-9 : 地域別テニピン導入数・導入率 (n=385)

	全体回答者数(人)	テニピン導入数(人)	テニピン導入率(%)
合計	385	41	10.6
北海道	7	0	0.0
東北	32	3	9.4
関東	83	6	7.2
中部	94	13	13.8
近畿	60	8	13.3
中国	30	3	10.0
四国	19	2	10.5
九州・沖縄	60	6	10.0

図表 3-10：都道府県別テニピン導入数・導入率（n=385）

	全体回答者数(人)	テニピン導入数(人)	テニピン導入率(%)
合 計	385	41	10.6
北海道	7	0	0.0
青森県	7	1	14.3
岩手県	4	0	0.0
宮城県	9	0	0.0
秋田県	2	0	0.0
山形県	3	0	0.0
福島県	7	2	28.6
茨城県	6	1	16.7
栃木県	2	0	0.0
群馬県	3	0	0.0
埼玉県	17	0	0.0
千葉県	23	3	13.0
東京都	20	1	5.0
神奈川県	12	1	8.3
新潟県	12	1	8.3
富山県	4	0	0.0
石川県	4	1	25.0
福井県	9	1	11.1
山梨県	10	1	10.0
長野県	9	2	22.2
岐阜県	6	0	0.0
静岡県	12	1	8.3
愛知県	28	6	21.4
三重県	7	1	14.3
滋賀県	7	0	0.0
京都府	7	1	14.3
大阪府	18	3	16.7
兵庫県	14	1	7.1
奈良県	4	1	25.0
和歌山県	3	1	33.3
鳥取県	1	0	0.0
島根県	6	1	16.7
岡山県	9	1	11.1
広島県	8	1	12.5
山口県	6	0	0.0
徳島県	4	0	0.0
香川県	4	1	25.0
愛媛県	9	1	11.1
高知県	2	0	0.0
福岡県	11	4	36.4
佐賀県	4	0	0.0
長崎県	3	0	0.0
熊本県	12	1	8.3
大分県	5	0	0.0
宮崎県	7	1	14.3
鹿児島県	14	0	0.0
沖縄県	4	0	0.0

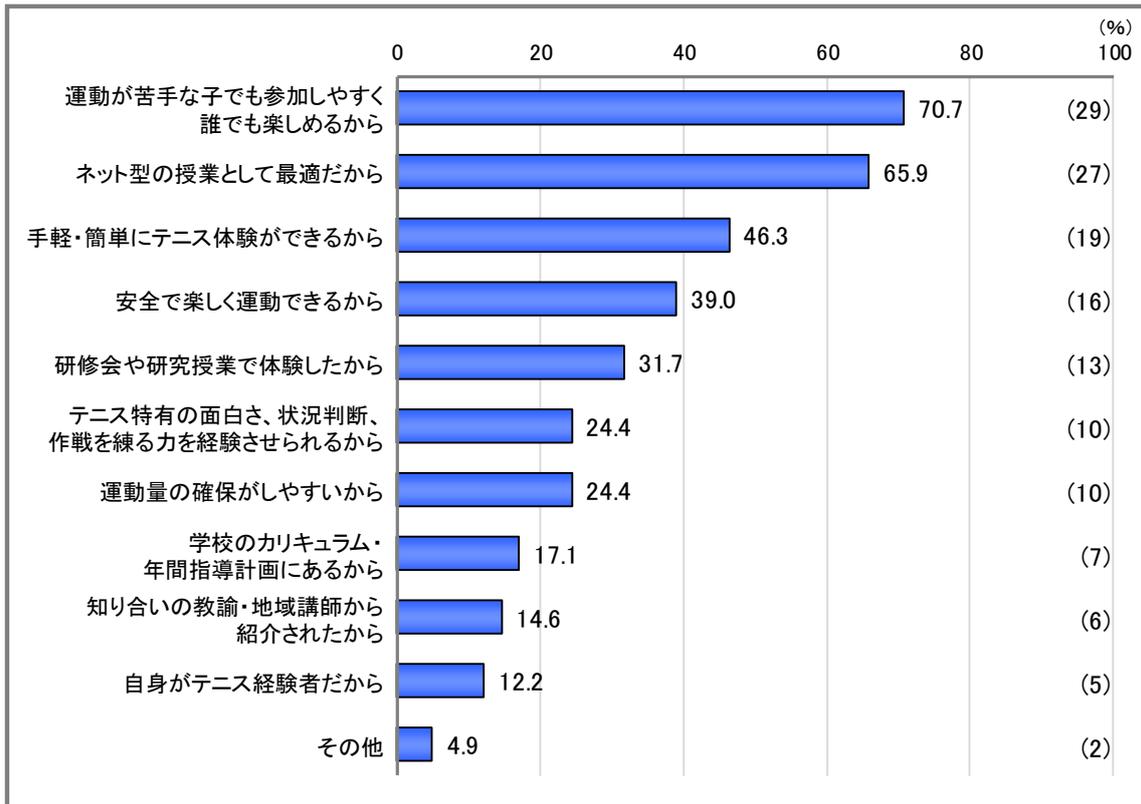
(注)・JTA 無償提供キャンペーン等での取り組みの数値とは異なります。

- ・これらは全国の小学校 18,480 校から約 10 校に 1 校を無作為抽出し調査対象としたサンプリング調査のため、実際導入されている学校が反映されていない可能性があります。
- ・都道府県別の数値は各県の回答者数が少ないため、参考値としてご覧ください。

テニピンの授業への導入理由を複数回答可でたずねた。導入済の学校の導入理由は、「運動が苦手な子でも参加しやすく誰でも楽しめるから」が約7割（70.7%）で最も多く、続いて「ネット型の授業として最適だから」（65.9%）、「手軽・簡単にテニス体験ができるから」（46.3%）、「安全で楽しく運動できるから」（39.0%）などが上位にあがった。

図表 3-11：テニピンを導入している理由（n=41） ※複数回答可

Q 4（Q 3 でテニピンを導入しているとお答えの方に）導入している理由は何ですか。



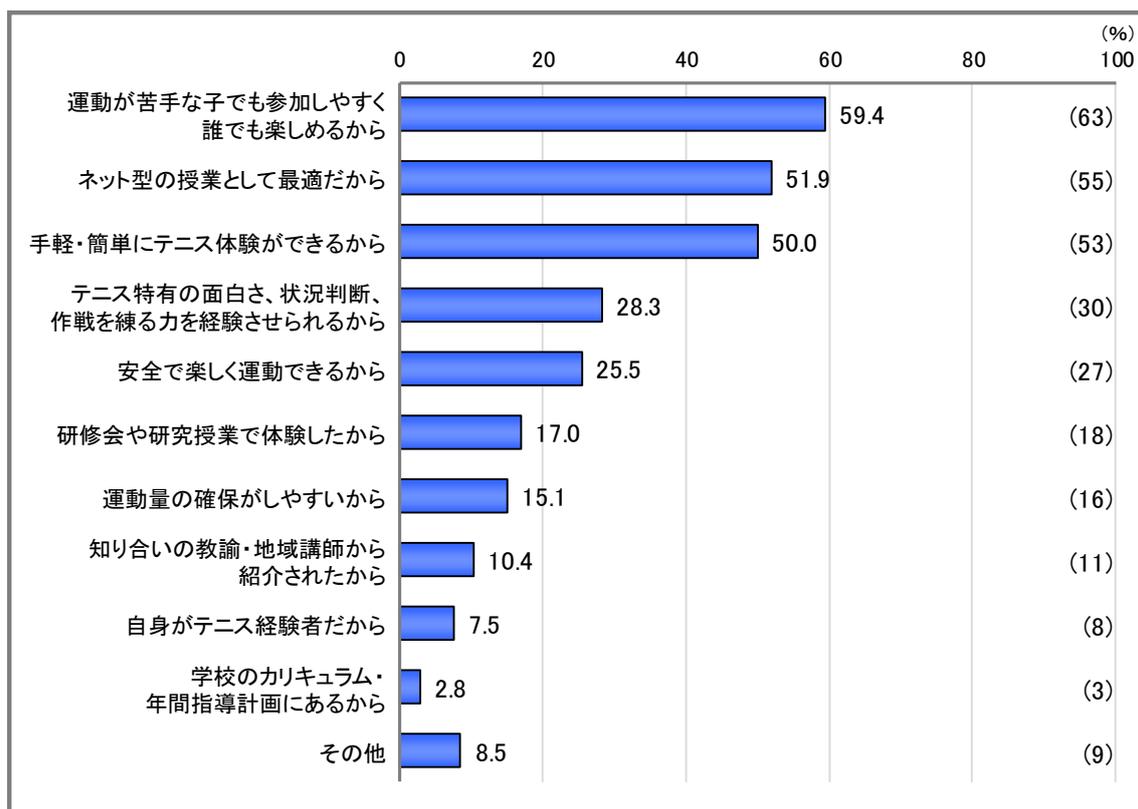
()内人数

今後導入を検討している学校の導入理由は、「運動が苦手な子でも参加しやすく誰でも楽しめるから」(59.4%)、「ネット型の授業として最適だから」(51.9%)、「手軽・簡単にテニス体験ができるから」(50.0%)が5割台で上位にあがった。

図表 3-12：テニピンの導入を検討している理由 (n=106) ※複数回答可

Q 4 (Q 3 でテニピンの導入を検討しているとお答えの方に)

導入を検討している理由はなんですか。



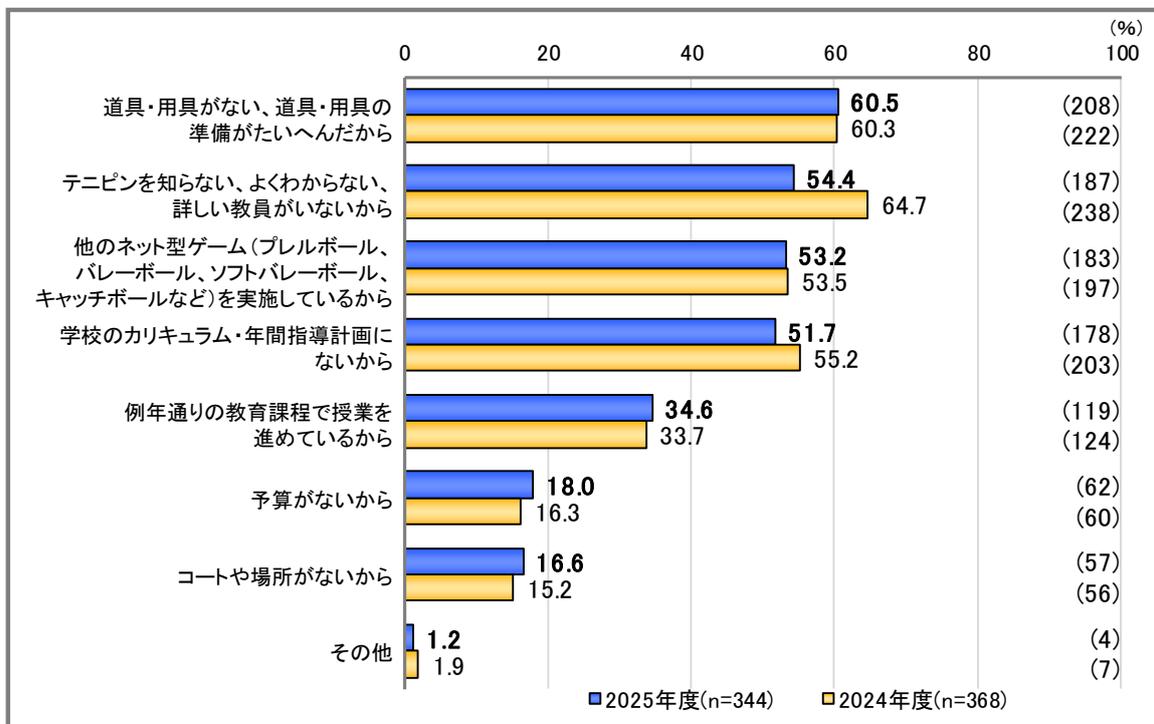
()内人数

テニピンを導入していない学校に対して学校の授業にテニピンを導入していない理由を複数回答可でたずねたところ、「道具・用具がない、道具・用具の準備がたいへんだから」(60.5%)、「テニピンを知らない、よくわからない、詳しい教員がないから」(54.4%)、「他のネット型ゲームを実施しているから」(53.2%)、「学校のカリキュラム・年間指導計画にないから」(51.7%)などが上位にあがった。

2024年度調査と比べると、2024年度は1位にあがった「テニピンを知らない、よくわからない、詳しい教員がないから」は64.7%から54.4%と約10ポイント減少した。テニピンの認知度が上がったことが影響したと考えられる。

図表 3-13 : テニピンを導入していない理由 (n=344) ※複数回答可

Q 5 (Q 3 でテニピンを導入していないとお答えの方に) 導入していない理由は何ですか。



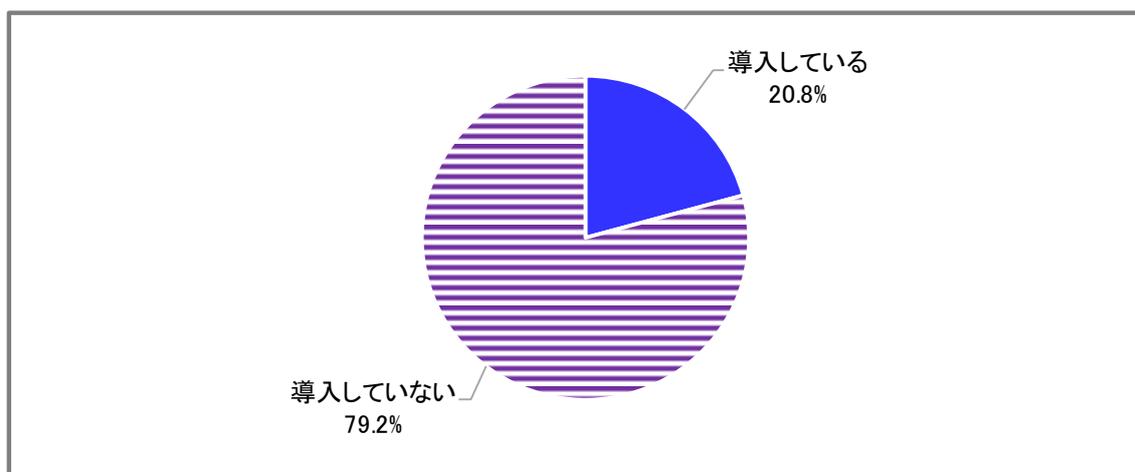
()内人数

テニピン以外のバドミントンやテニスをもとにしたゲームの導入状況については、全体の約2割（20.8%）が「導入している」と回答した。

具体的なゲーム・種目名としては、「バドミントン」（62件）が圧倒的に多かった。バドミントン以外では、「ソフトバレーボール」（10件）、「ソフトテニス」（4件）、「卓球」（2件）のほか、「キャッチバレーボール」「ダブルバウンドテニス」「フロアボール」（各1件）などがあがった。

図表 3-14：「バドミントンやテニスを基にしたゲーム」学校の授業への導入有無（n=385）

Q 6 「テニピン」以外の「バドミントンやテニスを基にしたゲーム」を学校の授業に導入していますか？



図表 3-15：「バドミントンやテニスを基にしたゲーム」で導入しているゲーム名や種目（n=80）

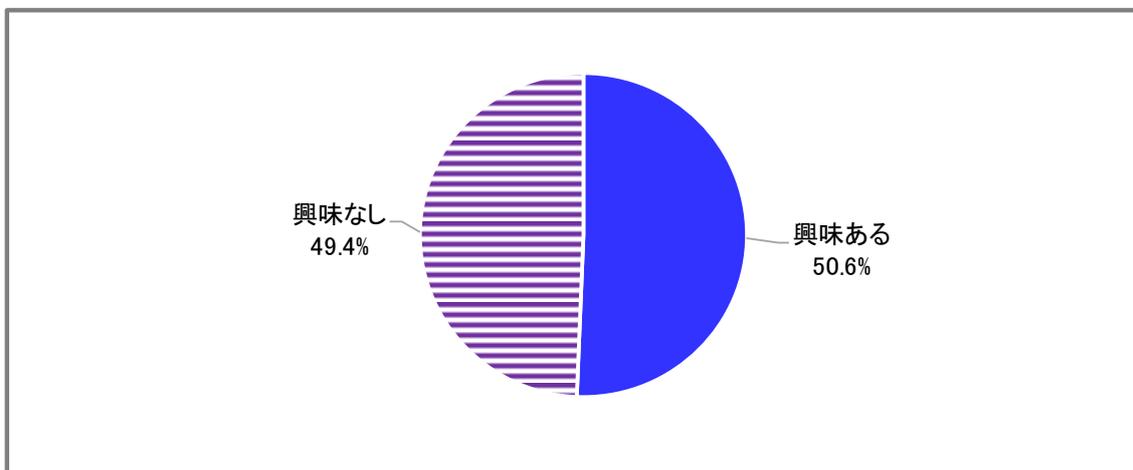
Q 7（Q 6で「バドミントンやテニスを基にしたゲーム」を導入していると答えの方に）導入しているゲーム名や種目を具体的にお知らせください。

順位	導入しているゲーム名や種目	件数	%
1	バドミントン	62件	77.5
2	ソフトバレーボール	10件	12.5
3	ソフトテニス	4件	5.0
4	卓球	2件	2.5
5	キャッチバレーボール	1件	1.3
5	フロアボール	1件	1.3
5	ダブルバウンドテニス	1件	1.3
5	テニスを基にした易しいゲーム	1件	1.3

テニピン講師(教員研修会、出張授業)の無償派遣については、約半数の 50.6%が「興味ある」と回答した。

図表 3-16：講師(教員研修会、出張授業)の無償派遣への興味 (n=385)

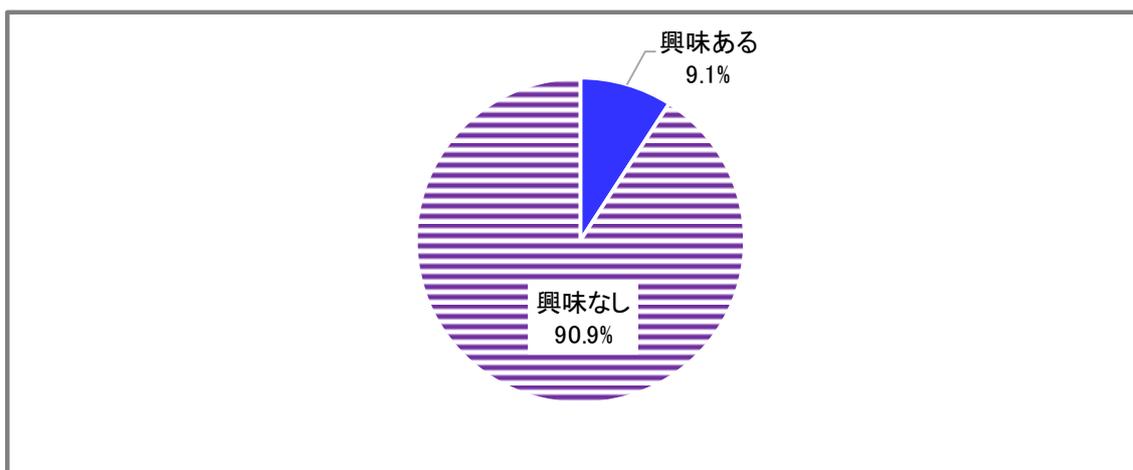
Q 8 テニピン講師(教員研修会、出張授業)の無償派遣に興味はありますか？



テニピンリーダーの認定資格への興味をたずねたところ、全体の約 1 割 (9.1%) が「興味ある」と回答した。

図表 3-17：テニピンリーダー認定資格への興味 (n=385)

Q 9 テニピンリーダー認定資格に興味はありますか？



3. 児童保護者向け調査

(1) 調査実施概要

調査目的	テニピン体育授業導入後の児童のテニス実施状況を把握する。
調査対象	JTA普及委員会がテニピンハンドラケットセットを無償提供した 小学校内の児童または保護者
調査方法	郵送依頼・WEB 調査 ・テニピンハンドラケットセットを無償提供した小学校宛に調査依頼状を 郵送して、テニピンを授業で行ったことのある学年・クラスに調査依頼状 を配布してもらい、テニピンの授業を受けたことがある児童またはその保 護者に WEB アンケートによる回答を依頼した。どの学年・クラスに配布す るかは、特に指定はせず各学校に任せた。
回答者数	392s
調査時期	2026 年 2 月～3 月
調査実施	(株) 日本リサーチセンター

(2) 調査結果の概要

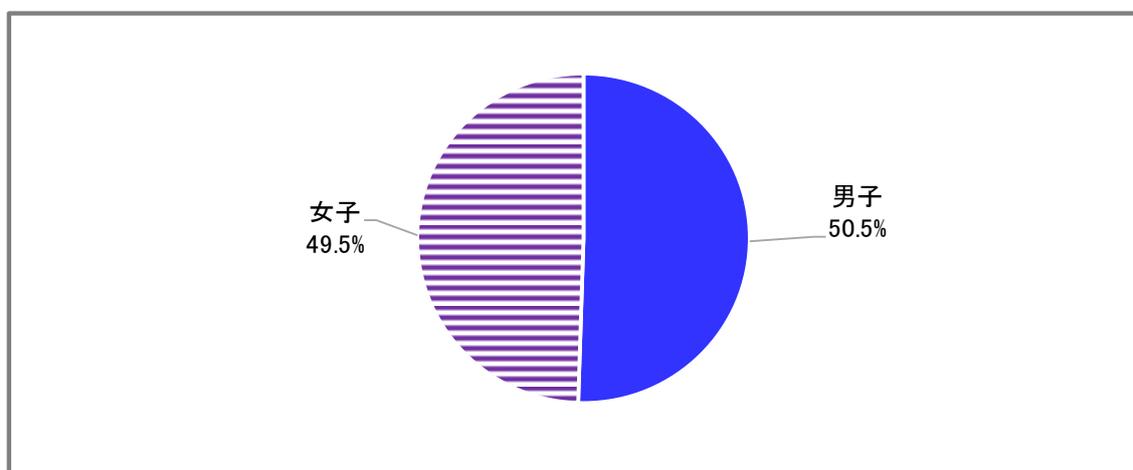
◆無償提供校への調査：「テニピン」体育授業導入後のテニス実施状況調査

日本テニス協会では、これまで小学校に対してテニピンハンドラケットセットを無償提供し、ネット型スポーツ「テニピン」を通じてテニスの普及を推進してきた。体育授業におけるテニピンの実施によって児童の行動や心理にどのような変化が生じ、さらにその変化がテニスの実施へとつながっているかを明らかにすることを目的に調査を実施した。2021年から2025年の間にテニピンの道具を無償提供した72校の小学校に調査協力を依頼し、392名から回答を得た。

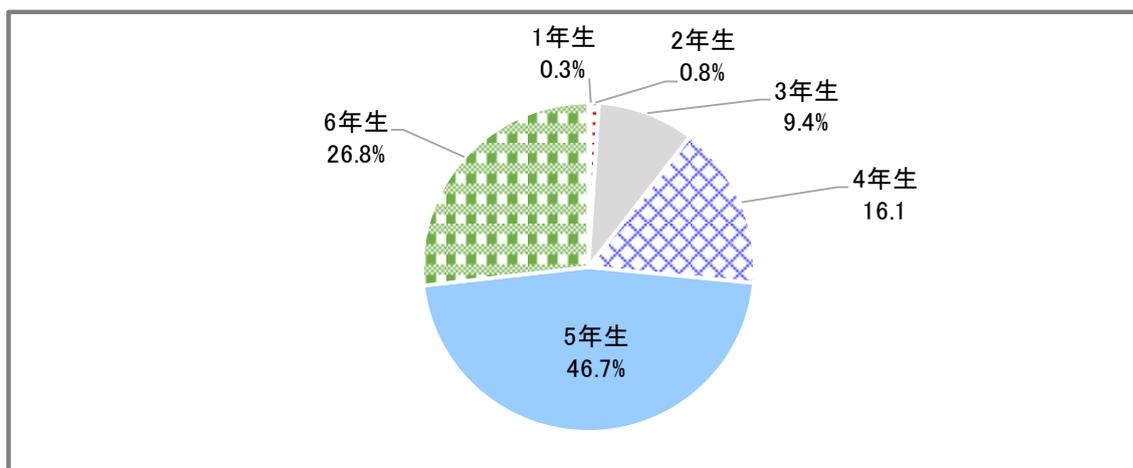
下記では、回答者392名の児童の属性（性別・学年）をまとめた。

男子女子の比率はほぼ半々であった。学年は5年生が4割台(46.7%)で最も多く、6年生(26.8%)と合わせると全体の約7割を5年生以上の高学年が占める。

図表 3-1：回答者の属性（性別）（n=392）



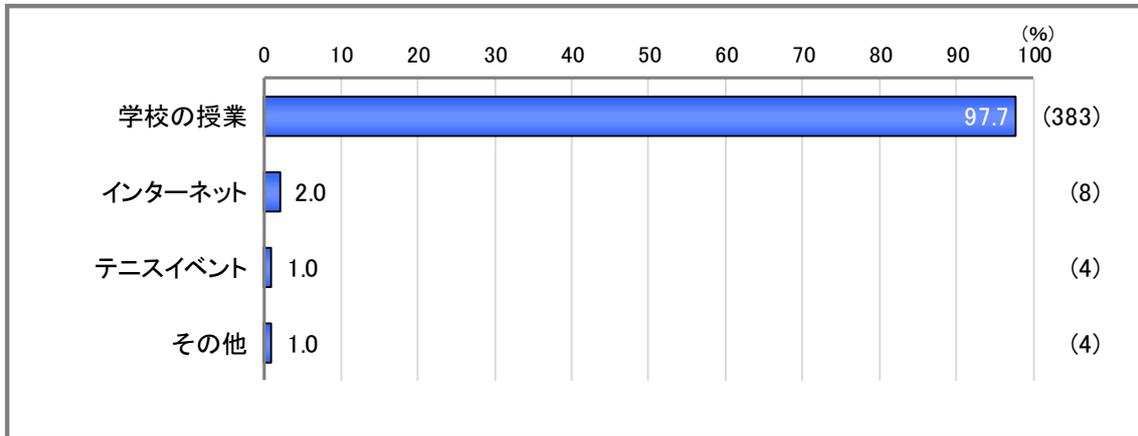
図表 3-2：回答者の属性（学年）（n=392）



テニピンの認知経路は「学校の授業」が97.7%で圧倒的に多い。学校の授業以外では、インターネットが2.0%、テニスイベントが1.0%であった。

図表 3-3 : テニピン認知経路 (n=392) ※複数回答可

Q1 「テニピン」をどこで知りましたか。(いくつでも)

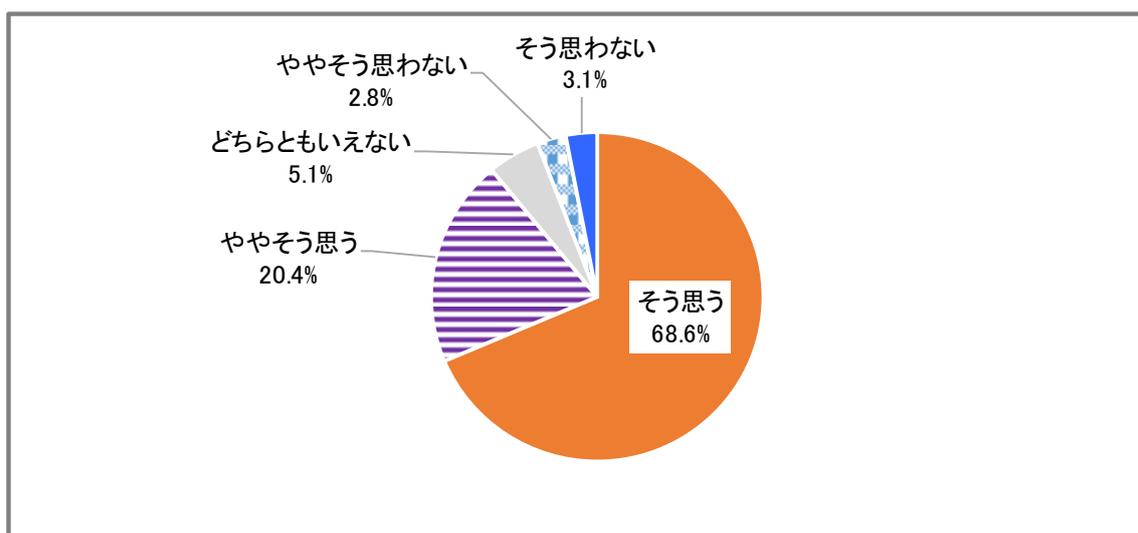


()内人数

テニピンをおこなった感想について、テニピンがおもしろかったかどうかたずねた。「そう思う」が全体の約7割(68.6%)を占めた。「ややそう思う」(20.4%)と合わせると、全体の約9割(89.0%)がテニピンはおもしろかったと回答した。

図表 3-4 : 「テニピン」は面白かったか (n=392)

Q2 「テニピン」は、おもしろかったですか。



「テニピン」のおもしろかったところと難しかったところを自由に記述してもらった。

おもしろかったところとしては、チームでの協力や声掛けなど団結力の大切さ、思い切り打つことや狙った場所に打ち返す爽快感、相手とラリーを長く続ける楽しさや達成感、サーブを決めることやその瞬間の手応え、ボールを追いかけて打ち返せた時の喜び、強い球を打つことや力加減のコントロールについて、打ちにくい球を返す面白さ、相手の隙を突くコース選びや戦略的な駆け引きについて、ラケットを手に直接装着するので誰でも簡単にできてテニスとは違う感覚で動ける点について、ボールが大きく柔らかいことにより苦手でも簡単にできること等の記述があった。

図表 3-5: 「テニピン」面白かった点 (※一部を抜粋して掲載)

Q3 「テニピン」の「おもしろかったところ」をおしえてください。

「テニピン」の「おもしろかったところ」	学年	性別
チームの人と協力して、声を出して、相手のチームに勝てること。	5年生	男子
仲間と協力ができること。ラリーが続いたときの達成感。ボールが苦手でも簡単にできること。	6年生	女子
チームワークと作戦づくり	6年生	女子
仲間と助け合えることや、初心者でも簡単なルールでやりやすかった。	6年生	女子
ペアを組んだお友達と仲良くなれたし、ラリーも続くので楽しめた	4年生	女子
ボールを打つのが楽しかった。	4年生	男子
いろんなところにボールがフワッと飛んでいたりするのが面白かったです。	5年生	女子
打ち返した時に、スカッとした	5年生	男子
打ち返しにくいボールが来たときに、打とうとして打てなかったときが面白かったです。	5年生	女子
打ったときの爽快感とボールをどこに打とうかなどを考えられて、すごく自由な感じ	5年生	男子
コートが小さくボールをコントロールしてコースを狙いやすかったとおもいます	6年生	女子
手に直接ラケットを付けて行うのでやりやすく、ラリーが続けやすかったこと	4年生	男子
おもしろいと思ったことは、長いラケットではなくて、手にはめるラケットだから、前が見えやすかったりすることです。あとは、ボールが色々なところに行っても、身軽で動きやすいところが楽しい！	5年生	女子
手に直でつけているため、ボールを打った際の振動が実際に伝わってきたところが面白かった。	6年生	男子
自分の手にラケットをはめて打つからどこに打てるかがよくわかって面白かった。	5年生	男子
手でボールを返す遊びはあまりないので、とても新感覚の遊びでした。	5年生	女子
相手とラリーを続けて最高記録を目指すのがおもしろかった	5年生	男子
ラリーをみんなでつなげていくところ 相手にも取りやすいようにボールを送ること	6年生	男子
ラリーを打ったときの気持ちよさ	4年生	女子
跳ね返すのがおもしろい	3年生	男子
軽くボールを叩くだけですごく跳ねたりして面白かった。	5年生	男子
ボールを弾き返したり相手にスマッシュをうって点を決めるのがかなり気持ち良かった	5年生	男子
テニスのようにスマッシュが打てること。(仮にボールが当たっても痛くない)	5年生	女子
テニスといったらとても難しく感じてしまうところがあるけれど 簡単にたのしくできたのがよかった	6年生	女子
テニスラケットより軽くて打ちやすくて何回も続いたこと。	6年生	女子
テニスのルールはあまり知らなかったけど、知らない人でも簡単にできて楽しく面白かったです。	5年生	女子
強さや、距離、角度によって落ちる場所が変わるので、作戦などをたててできたところが面白かったです。	5年生	女子
動きながら、いろいろな変化球や場所に打って相手の嫌がることをしたのが面白かったです。	5年生	男子
作戦を考えるのが面白い	4年生	男子
作戦を考えて点を取って勝つこと	5年生	男子
試合がおもしろかった	5年生	男子
試合のとき相手がどこに打つかを考えて、移動するのが面白かった	5年生	女子
対戦だったり、戦略を考えたりするところです。	6年生	男子
あまり経験したことのない競技だったので、いつもとは違う動きや、得点を入れられた時の達成感などが面白かったです。	3年生	女子
普段したことのない動きだった。ラケットであてるのがおもしろかった。ボールが柔らかくてこわくなかった。	5年生	男子
運動が苦手でもボールにさわるチャンスがあること。	5年生	男子
卓球はボールが小さくて難しいけど、テニスとも違って、ボールがスポンジで扱いやすくて、運動が苦手でもできた。ラケットも打ちやすかった。	6年生	男子
卓球とかテニスが合体したみたいでどちらも好きだから面白かった。	6年生	女子
点数を取って勝ち負けが決まること	3年生	男子
点を決めた時が楽しい	5年生	男子

難しかった点としては、チームでの協力や作戦共有や連携の難しさ、ボールを狙った方向に正確に打ち返す動作、ラリーの継続や相手との距離感の調節、サーブや打球の力加減、ボールの落下地点への移動や素早い反応、バウンドの仕方や軌道を予測すること、ルールの把握や正しい得点計算、相手のいない場所を狙うなどの駆け引き、試合中の姿勢の維持や体力の消耗、ラケットの装着方法や手に装着したラケット特有のボール操作についてなどがあがった。

図表 3-6 : 「テニピン」 難しかった点 (※一部を抜粋して掲載)

Q4 「テニピン」の「むずかしかったところ」をおしえてください。

「テニピン」の「むずかしかったところ」	学年	性別
2回連続でボールに触れないのでチームで協力することが大切でした。それが難しかったです	3年生	女子
おもしろいけど、チームワークでやるのが事前に作戦などを建てないといけなく、実際にやるときにできないところがあったなど	6年生	女子
作戦通り動くこととチームワーク	6年生	女子
仲間と協力すること	5年生	男子
友達とラリーを続けることが難しかった	4年生	男子
ねらったところに打つこと。	5年生	男子
バックで打つとき 飛び込んで打つとき	5年生	男子
思いがけない場所に落ちることがあるので、臨機応変に対応しなければいけないところが難しかったです。	5年生	女子
次どこにボールが飛んでくるか予想することが難しかった	5年生	女子
相手が打ちやすいように自分も打たないと、ラリーが続かにくいということです。	5年生	女子
相手が打ったボールを打ちかえすために移動するのが間に合わなかったり、予想外のところに飛んでくることがあるので難しかった。	5年生	男子
相手チームが、どのような作戦をとってくるのかを読むのが難しかったです。	5年生	男子
相手の動きを予測したり、手の力を変えることです	5年生	女子
速い球を返すところや、相手が打ってくる場所を予想して、自分がいるべき場所を考えること。	5年生	男子
打ち返すところが難しかったです。	5年生	女子
ボールを返すのが難しかった。方向によって打つ場所を変えるのが難しかった。	6年生	女子
1回バウンドしてから打つ所が少し難しかったです。	5年生	女子
2人で一緒にやって交互に打つからむずかしかった。	5年生	男子
うまく手に当たらないところが難しかった	4年生	女子
ボールが近くにきたときに受け方が難しかったです	6年生	女子
コートの外にボールが飛ぶことがあった。力加減が難しかった。	5年生	男子
コントロールが難しい	4年生	女子
強く打ちすぎると、コート外に出て、相手の得点になってしまう。	4年生	男子
ボールのコントロールや力加減が難しかったです	6年生	女子
角度によってボールが違う方向に行くからそれを考えながらするのが難しかったです	5年生	女子
力加減をうまく調整すること	5年生	男子
ルールが少し覚えにくかった	5年生	男子
ラリーを続けること	5年生	女子
相手とのラリー時にラケットの力の加減が難しかったです。長くラリーを続けたかったのですが中々続けることは出来ず苦戦しました。	4年生	男子
ラケットにボールを当てるのが難しかった。	3年生	女子
ラケットの真ん中にボールを当てるのが難しかったです。真ん中に当たらないと上手く跳ね返すことができませんでした。	4年生	女子
手とラケットが一体化したみたいで面白かったけど、操作するのが意外と難しかった。それがまたいい。	6年生	女子
手の動きや手首の動きでボールの進む方法が変わるため、ボールの扱いがむずかしいと感じた。	6年生	女子
右手でラケットをはめるから左手で投げるのが難しかったです	3年生	男子
対戦相手と得点について揉めるかが多く、難しかったです。	3年生	男子
体の使い方が他の球技と違って難しかったです。	5年生	女子
動体視力や立体視が弱いとボールを取れない。どちらも弱めなのでそこは難しかったです。	6年生	女子

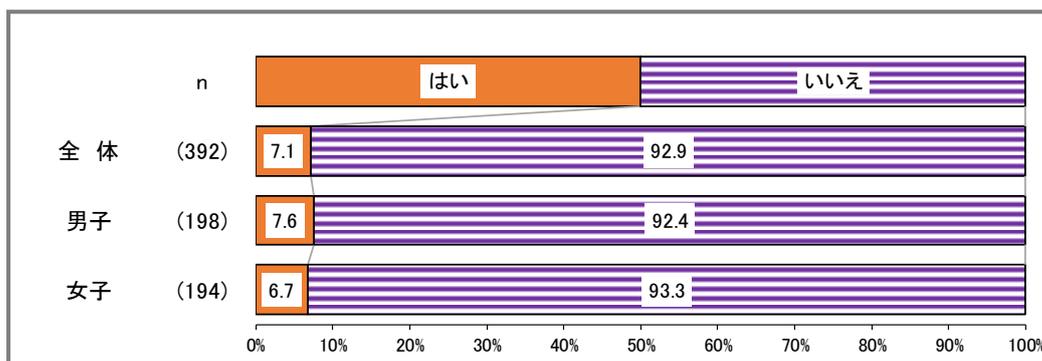
「手のひらで打つ」という直感的な操作によって初心者はラリーが続かないというネット型ゲームの最大の壁を克服したテニピンは、ラリーを継続しやすくし、狙ったところへ打つという操作性が上がることで、ネット型ゲームの楽しさや、戦略を練る面白さ、爽快感を味わいやすいゲームといえる。

テニピンのおもしろかったところと難しかったところを具体的に挙げてもらった結果からは、力加減やボールのコントロールが難しいという声が多くあがったが、その分、ラリーが続いた時の喜びや、狙ったところにボールが落ちたりサーブやスマッシュがうまくいったりした時の手応えなど、ネット型ゲーム特有の魅力が児童に十分に伝わっている様子がうかがえる。

授業以外での実施状況について、テニピンを授業以外で行ったことがあるという児童は全体の1割未満（7.1%）であった。性別では、男子（7.6%）と女子（6.7%）に差は見られなかった。

図表 3-7：授業以外のテニピンの実施状況（n=392）

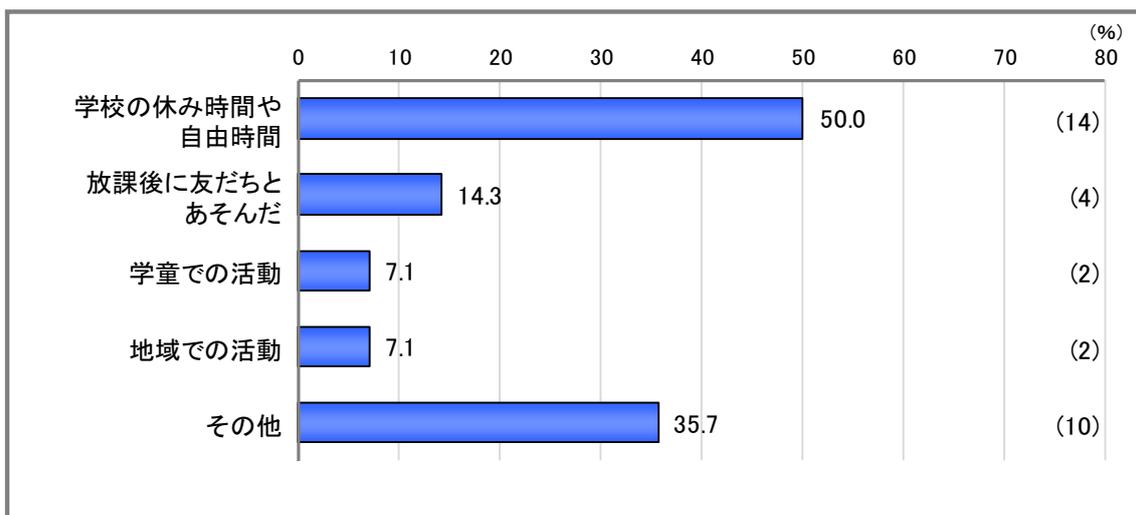
Q 5 「テニピン」を授業以外でおこなったことはありますか。



授業以外でテニピンを行ったことがあると回答した児童にどこで実施したか複数回答可でたずねた。「学校の休み時間や自由時間」が 50.0%で最も多く、「放課後に友だちとあそんだ」が 14.3%で2番目にあがった。「学童での活動」「地域での活動」はともに 7.1%であった。「その他」の具体的な内容としては、自宅や公園、テニスの練習時などがあがった。

図表 3-8：授業以外のテニピン実施場所（n=28） ※複数回答可

Q 6（Q 5で「はい」と答えた人に）「テニピン」をどこで行いましたか。

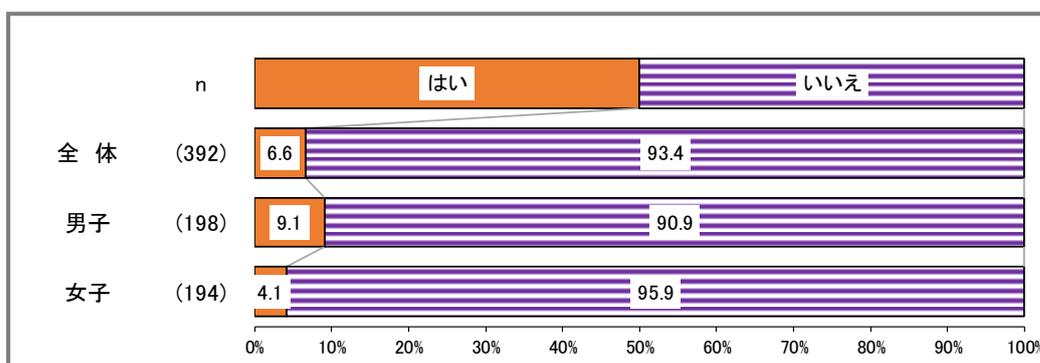


()内人数

テニピンを授業で体験した後に、実際にテニスを始めた児童は全体の6.6%であった。性別にみると、男子9.1%に対して女子は4.1%で、男子の方が実際にテニスをはじめた児童が多かった。

図表 3-9 : 授業後のテニスの実施 (n=392)

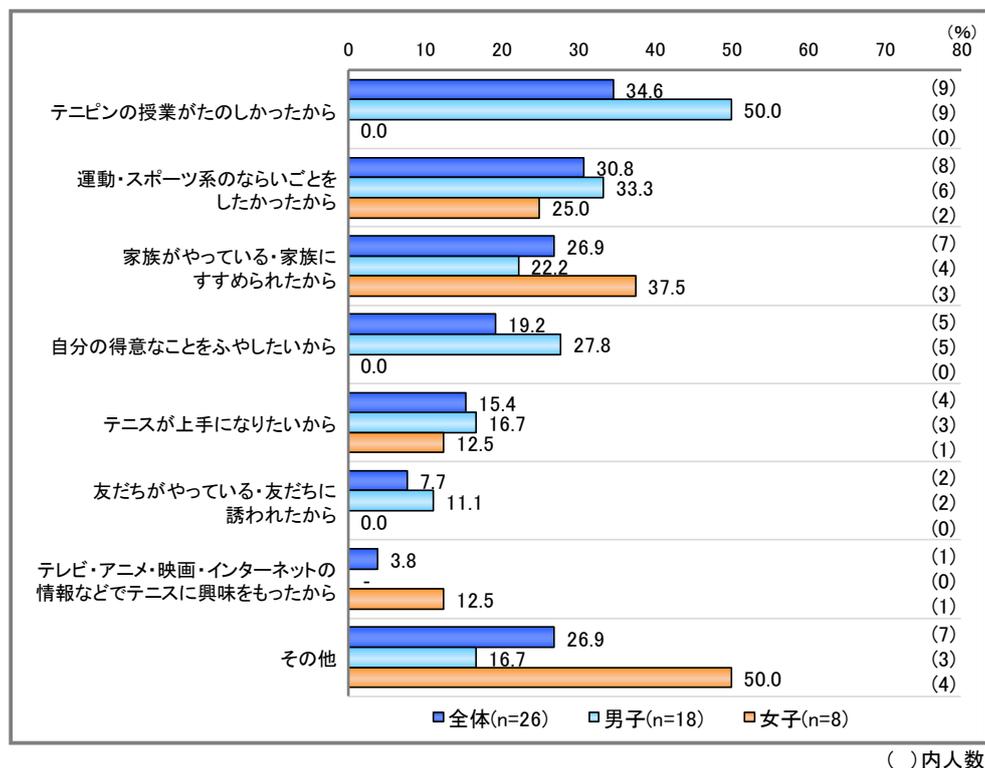
Q 7 「テニピン」を授業でおこなったあと、実際にテニスをはじめましたか。



テニスを実際に始めた理由をたずねたところ、全体では「テニピンの授業がたのしかったから」(34.6%)が最も多く、テニピンを授業で体験したことが大きなきっかけとなっていることがわかる。他には「運動・スポーツ系のならいごとをしたかったから」(30.8%)、「家族がやっている・家族にすすめられたから」(26.9%)、「自分の得意なことをふやしたいから」(19.2%)などが上位にあがった。

図表 3-10：テニスを始めた理由（n=26） ※複数回答可

Q 8 - 1（Q 7で「はい」と答えた人に）テニスを始めた理由はなんですか。（いくつでも）

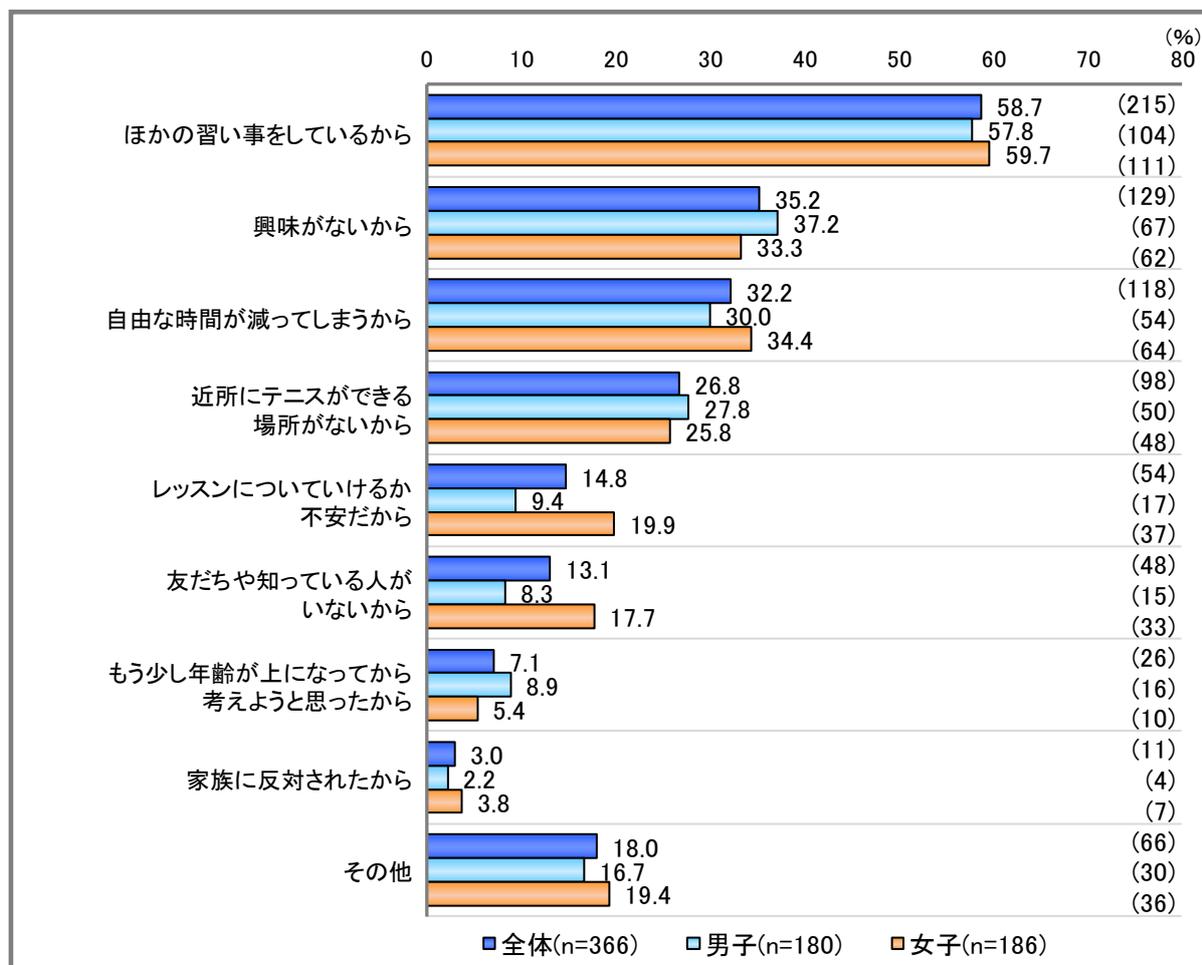


テニピン体験後にテニスを始めていない児童に対して、テニスを始めていない理由をきいたところ、「ほかの習い事をしているから」が約6割（58.7%）で特に多い。次いで、「興味がないから」（35.2%）、「自由な時間が減ってしまうから」（32.2%）、「近所にテニスができる場所がないから」（26.8%）などが上位にあがった。「興味がないから」を除くと、他の習い事との兼ね合いや自由時間の確保などがテニスを始める際の主な制約条件となっている様子が見えてくる。

性別にみると、「レッスンについていけないか不安だから」（男子9.4%、女子19.9%）と「友だちや知っている人がいないから」（男子8.3%、女子17.7%）は、女子の方が男子より約10ポイント高い。女子は男子よりもテニススクール等に入った後にうまくやっけていけるかという不安感が大きく、それらが女子がテニスを始めるのを躊躇する要因の一つになっていると考えられる。

図表 3-11：テニスを始めていない理由（n=366） ※複数回答可

Q8-2（Q7で「いいえ」と答えた人に）テニスを始めていない理由はなんですか。（いくつでも）

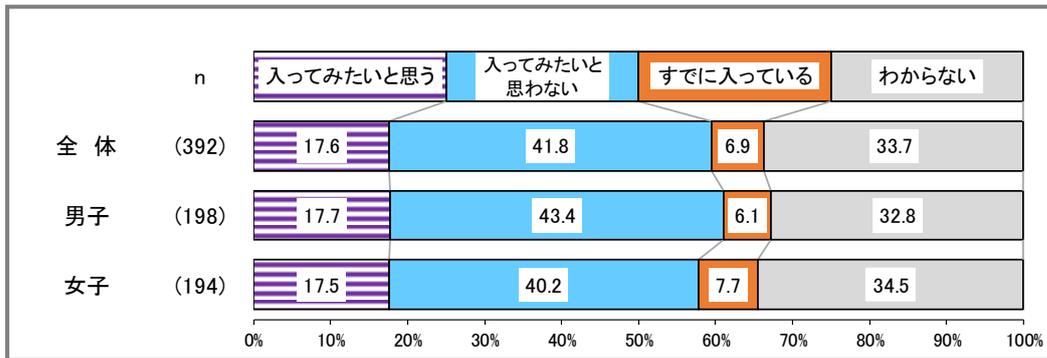


()内人数

全員に対してテニススクールに入りたいかどうかをたずねたところ、「入りたいと思う」は17.6%、「入りたいと思わない」は41.8%で、「入りたいと思わない」が「入りたいと思う」を上回った。性別では大きな差は見られなかった。

図表 3-12：テニススクール入会意向 (n=392)

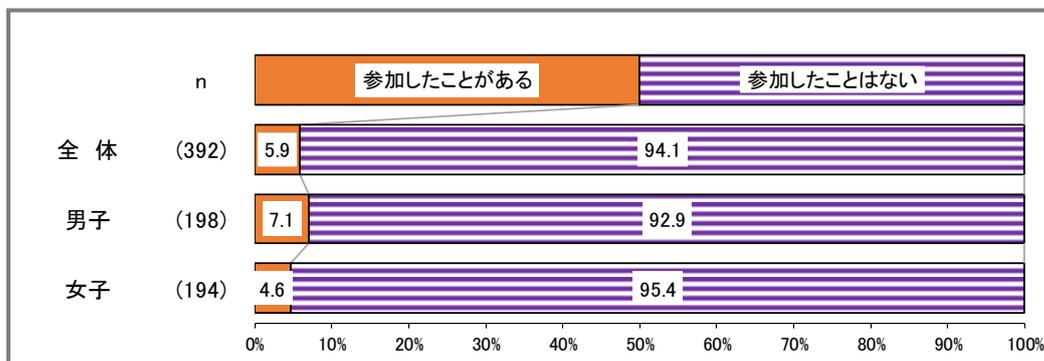
Q 9 テニススクールに入りたいですか。



テニススクールや都道府県協会が実施するテニス体験会へ「参加したことがある」のは全体の5.9%であった。性別では、男子（7.1%）と女子（4.6%）に大きな差は見られなかった。

図表 3-13 : 「テニス体験会」への参加状況 (n=392)

Q10 テニススクールや都道府県協会がおこなっている「テニス体験会」に参加したことはありますか。



4. 日本テニス協会 登録選手・公認審判員・公認指導者 登録者数

これまでマクロの視点が多かったテニス人口（登録者数など）について、より現状を把握できるように、昨年度に引き続き、数年における推移やグラフでの表記を心掛けた。ジュニアについては日本テニス協会加盟団体および協力団体競技団体の協力のもと、中学、高校、大学については、部員数などミクロの視点でのデータを表記するようにした。

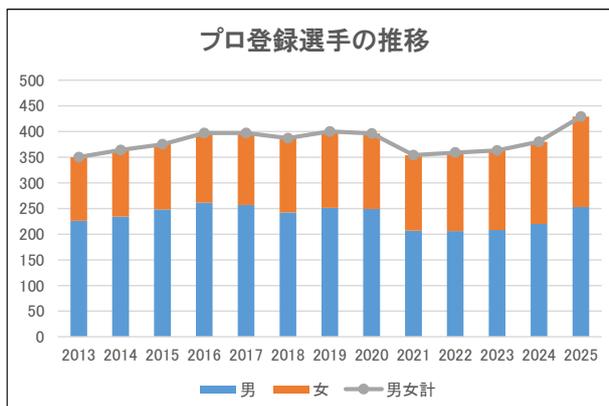
4-1 登録選手

4-1-1 プロ登録選手

「プロ登録選手」は2013年以降で最多の429人となった。前年に比べ男子は33人増の253人、女子は16人増の176人となった。

	男子		女子		合計	
	前年比		前年比		前年比	
地域合計	253	▲33	176	▲16	429	▲48
北海道	6	3	0	▲1	6	2
東北	1	0	1	0	2	0
北信越	2	0	6	3	8	3
関東	166	36	101	2	267	38
東海	31	8	23	9	54	17
関西	37	▲9	32	3	69	▲6
中国	4	0	4	▲1	8	▲1
四国	2	0	1	0	3	0
九州	4	▲5	7	0	11	▲5

注) 合計には海外の女子1人が含まれる

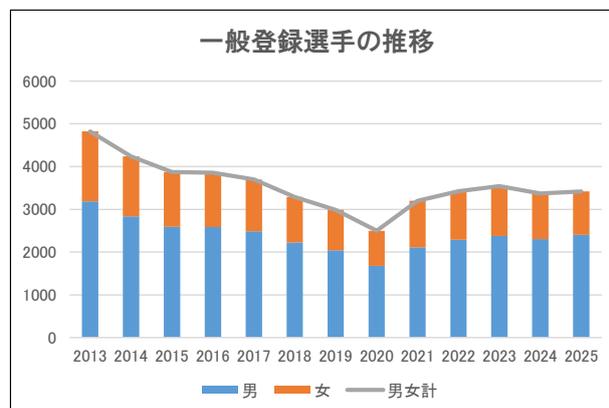


4-1-2 一般登録選手

「一般登録選手」は前年に比べて49人増の3,419人となった。男子は97人増加した一方で、女子は48人減少した。

	男子		女子		合計	
	前年比		前年比		前年比	
地域合計	2,403	▲97	1,016	▲48	3,419	▲49
北海道	57	5	15	▲3	72	2
東北	88	18	30	6	118	24
北信越	69	0	31	7	100	7
関東	1,206	4	609	▲30	1,815	▲26
東海	230	13	81	▲12	311	1
関西	379	12	122	▲14	501	▲2
中国	89	3	44	6	133	9
四国	39	8	15	1	54	9
九州	244	32	67	▲11	311	21

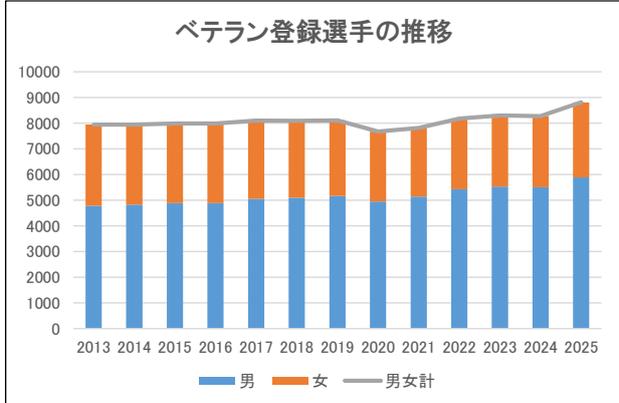
注) 合計に登録地域不明者4人が含まれているため、前年比に差が含まれる



4-1-3 ベテラン登録選手

「ベテラン登録選手」は前回の8,277人から8,808人へと500人以上増加した。2022年以降、8,000人台で堅調に推移していたが今年は大幅に増加し2013年以降で最多となった。

	男子		女子		合計	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
地域合計	5,887	386	2,921	145	8,808	531
北海道	164	15	142	5	306	20
東北	177	2	76	1	253	3
北信越	157	1	88	12	245	13
関東	3,162	247	1,604	90	4,766	337
東海	422	32	198	16	620	48
関西	1,026	41	427	12	1,453	53
中国	234	18	105	▲6	339	12
四国	131	14	56	2	187	16
九州	414	16	225	13	639	29

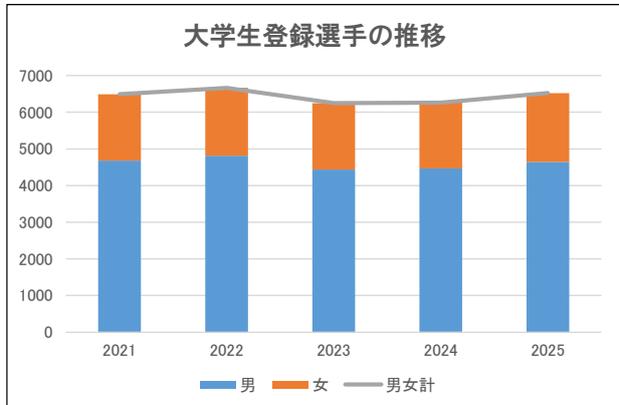


4-1-4 大学生登録選手

「大学生登録選手」の登録者数は、2021年の約6,500人からほぼ横ばいが続いている。

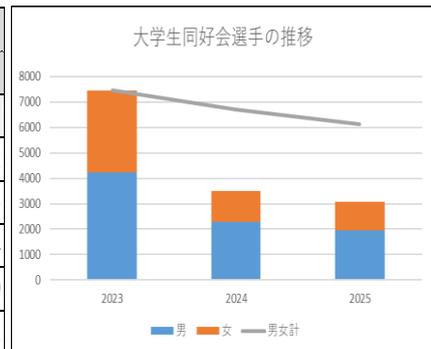
■大学生登録選手

	男子		女子		合計	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
地域合計	4,642	175	1,878	83	6,520	258
北海道	269	6	123	▲1	392	5
東北	264	2	79	10	343	12
北信越	347	62	157	25	504	87
関東	1,556	107	686	14	2,242	121
東海	565	30	219	▲4	784	26
関西	832	▲17	367	17	1,199	0
中国	368	▲3	108	16	476	13
四国						
九州	441	▲12	139	▲447	580	▲459



■全日本学生庭球同好会連盟 加盟数

	サークル数	男子		女子		人数合計		
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比		
地域合計	142	▲24	1,956	▲329	1,106	▲117	6,124	▲587
関東	27	▲11	435	▲324	201	▲208	636	▲532
東海	6	▲3	171	▲19	115	▲16	286	▲35
関西	23	▲1	1,176	416	727	278	1,903	694
九州	3	▲6	174	▲335	63	▲155	237	▲490
5地方連盟	83	83	-	-	-	-	3,062	3,062

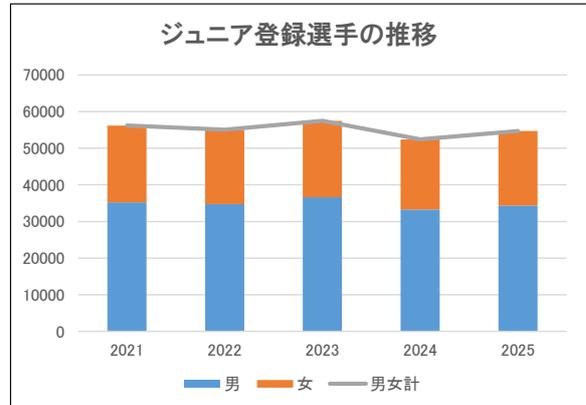


4-1-5 ジュニア登録選手

ジュニア選手の登録者数は、2024年は前年と比べて約10%減少したが、2025年は持ち直し前年比約4%増となった。具体的には、男女それぞれで1,000人以上、男女合計で2,277人増加した。

※JPINのデータを元に表記しているが、関東のみ、関東テニス協会ジュニア委員会の協力を得てデータを修正している。

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	34,360	▲1,092	20,322	▲1,185	54,682	▲2,277
北海道	1,646	▲4	1,191	▲31	2,837	▲27
東北	2,670	▲434	1,774	▲317	4,444	▲751
北信越	2,990	▲98	1,859	▲83	4,849	▲181
関東	7,857	▲241	3,695	▲97	11,552	▲338
東海	5,557	▲338	3,371	▲134	8,928	▲472
関西	6,252	▲506	3,638	▲219	9,890	▲725
中国	1,759	▲281	1,015	▲213	2,774	▲494
四国	1,830	▲419	1,352	▲387	3,182	▲806
九州	3,799	▲949	2,427	▲604	6,226	▲1,553

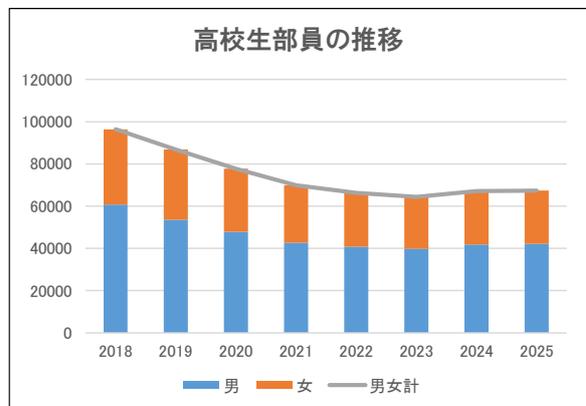


4-1-6 高校生登録選手

高校生の登録選手は、2024年とほぼ同水準の67,000人台で推移している。学校数（登録校数合計）は2,677校となった。（引用元：全国高体連テニス専門部。登録が始まった8年からのデータを表記している）

■生徒数

	男子		女子		合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	42,142	▲331	25,254	▲76	67,396	▲255
北海道	1,220	▲2	866	▲14	2,086	▲12
東北	1,553	▲60	910	▲127	2,463	▲187
北信越	2,096	▲178	1,270	▲53	3,366	▲231
関東	16,586	▲490	10,001	▲89	26,587	▲401
東海	7,807	▲1,192	4,583	▲898	12,390	▲2,090
関西	6,068	▲811	3,750	▲480	9,818	▲1,291
中国	1,932	▲146	1,160	▲42	3,092	▲188
四国	1,004	▲39	555	▲19	1,559	▲58
九州	3,876	▲119	2,159	▲150	6,035	▲269



■学校数

	男子		女子		登録校数合計	
		前年比		前年比		前年比
地域合計	2,402	▲55	2,123	▲79	2,677	▲134
北海道	103	▲1	93	▲7	110	▲6
東北	129	▲7	110	▲8	143	▲15
北信越	152	▲4	125	▲6	171	▲10
関東	850	▲0	798	▲10	961	▲10
東海	304	▲3	269	▲2	330	▲1
関西	347	▲30	311	▲37	389	▲67
中国	142	▲5	114	▲3	160	▲8
四国	94	▲2	77	▲2	99	▲4
九州	281	▲5	226	▲8	314	▲13

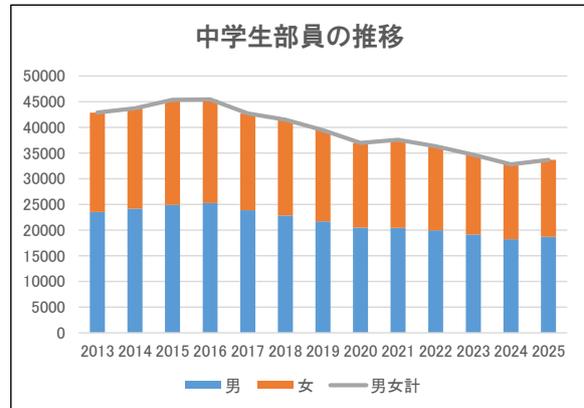
引用元：全国高体連テニス専門部

4-1-7 中学生登録選手

中学生の登録選手は2016年をピークに減少傾向にあったが、2025年は前年に比べやや増加し、男女合計で885人増となった。生徒数は増加したが、学校数（合計）は2,193校から2,083校へ減少した。（引用元：全国中学校テニス連盟）

■生徒数

	男子		女子		合計	
	前年比		前年比		前年比	
地域合計	18,690	▲54	15,007	▲431	33,697	▲885
北海道	85	52	91	63	176	115
東北	329	94	255	97	584	191
北信越	411	▲35	265	5	676	▲30
関東	9,556	496	7,933	195	17,489	691
東海	1,292	▲132	1,140	153	2,432	21
関西	3,914	19	2,981	9	6,895	28
中国	668	64	454	29	1,122	93
四国	402	46	339	▲7	741	39
九州	2,033	▲150	1,549	▲113	3,582	▲263



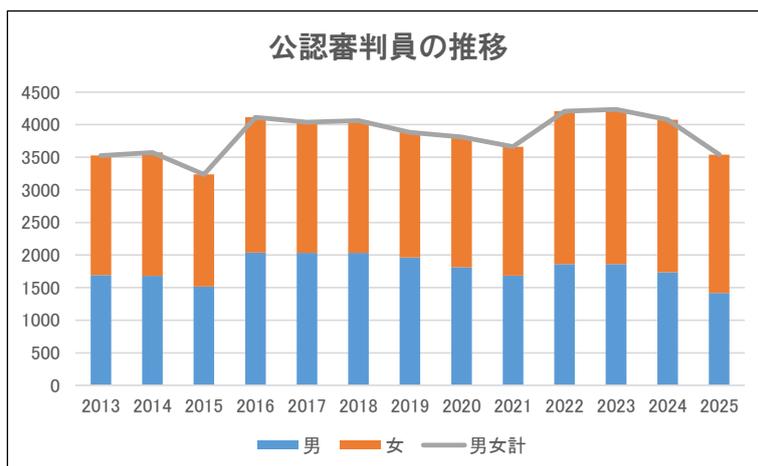
■学校数

	男子		女子		合計	
	前年比		前年比		前年比	
地域合計	1,068	▲64	1,015	▲46	2,083	▲110
北海道	5	4	6	4	11	8
東北	24	3	22	8	46	11
北信越	17	▲6	14	1	31	▲5
関東	505	10	529	2	1,034	12
東海	53	▲7	53	▲7	106	▲14
関西	176	▲13	164	▲14	340	▲27
中国	50	▲15	37	▲17	87	▲32
四国	24	0	26	1	50	1
九州	214	▲40	164	▲24	378	▲64

4-2 公認審判員

公認審判員は、2022年以降、4,000人台で推移していたが、2025年は約3,500人となり、2021年とほぼ同じ水準に戻った。

	レフェリー						アンパイア						チーフアンパイア					
	男子		女子		合計		男子		女子		合計		男子		女子		合計	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
地域合計	192	▲11	287	3	479	▲8	1,197	▲307	1,782	▲226	2,979	▲533	28	0	55	5	83	5
北海道	8	0	12	▲1	20	▲1	76	▲7	140	▲5	216	▲12	2	0	2	0	4	0
東北	13	0	5	1	18	1	67	▲29	124	0	191	▲29	2	0	0	0	2	0
北信越	18	▲1	16	2	34	1	101	▲16	154	▲7	255	▲23	4	0	5	0	9	0
関東	62	▲9	123	▲2	185	▲11	444	▲65	549	▲62	993	▲127	6	0	18	1	24	1
東海	16	▲3	34	▲5	50	▲8	118	▲44	159	▲16	277	▲60	5	0	8	1	13	1
関西	23	0	41	2	64	2	164	▲68	245	▲47	409	▲115	2	▲2	13	2	15	0
中国	25	0	16	0	41	0	102	▲18	141	▲17	243	▲35	5	1	4	0	9	1
四国	12	1	15	2	27	3	49	1	69	▲21	118	▲20	0	0	0	0	0	0
九州	15	1	25	4	40	5	76	▲61	201	▲51	277	▲112	2	1	5	1	7	2



4-3 公認指導員

公認指導員の資格は大きく分けて2つのカテゴリーがあり、公益財団法人日本スポーツ協会が主催する公認スポーツ指導者資格と、日本テニス協会が公認する資格とに分かれている。

4-3-1 コーチ1～コーチ4、テニス教師、テニス上級教師

公益財団法人日本スポーツ協会が主催する公認スポーツ指導者資格。

●コーチ1

都道府県でテニスの普及発展を図るため、初心者、初級レベルの一般成人やジュニアを対象に基礎的実技指導にあたる指導者を養成する。

●コーチ2

地域や都道府県で地域スポーツクラブ・学校運動部活動・テニス教室等において、年齢、競技レベルに応じたテニス指導にあたる中心的な役割を担うとともに、企画・立案・実行能力のある指導者を養成する。

●コーチ3

競技者育成プログラムに基づき、都道府県、地域レベルでのテニス競技者の発掘・育成・強化にあたる高い指導力・高い実技能力を持った指導者を養成する。

●コーチ4

トップアスリートの育成・強化にあたるとともに、都道府県・地域トレーニングセンターのリーダーとなる人物の育成にあたる指導者を養成する。

●テニス教師

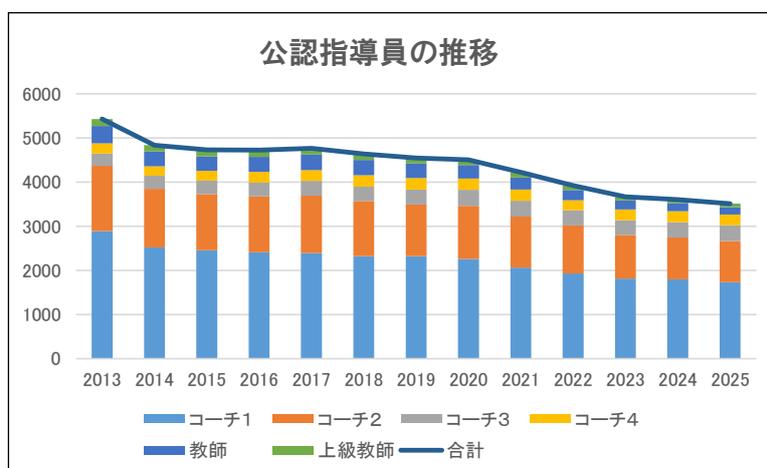
民間テニスクラブにおいて、初心者、初級、中級レベルの愛好家やジュニアを対象に、基本的実技指導にあたる指導者を養成する。またサービス業として顧客に対する対応ができ、社会的適応能力のある人材を育成する。

●テニス上級教師

民間テニスクラブにおいて、あらゆる対象に対する指導にあたるとともに、スクールの運営・管理、カリキュラム編成、イベント企画に参画できる指導者を養成する。

公認指導者（S級エリートコーチを除く）は合計3,514人。前年に比べて89人の微減となった。

日本スポーツ協会資格（2025年度）														
	コーチ1		コーチ2		コーチ3		コーチ4		教師		上級教師		合計	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
地域合計	1,733	▲64	934	▲12	355	7	244	▲5	169	▲14	79	▲1	3,514	▲89
北海道	53	▲3	24	0	7	1	2	0	3	1	0	0	89	▲1
東北	148	▲19	59	6	23	0	11	0	5	0	7	0	253	▲13
北信越	188	▲8	72	2	21	1	19	▲1	14	▲2	8	0	322	▲8
関東	414	4	257	▲9	127	2	96	▲1	64	▲2	34	▲2	992	▲8
東海	219	▲5	56	0	40	0	22	0	12	▲1	8	0	357	▲6
関西	335	12	187	▲5	68	7	42	▲2	44	▲7	10	2	686	7
中国	146	▲25	126	▲9	24	▲3	26	0	9	▲2	3	0	334	▲39
四国	65	▲3	46	▲2	19	▲1	8	0	4	0	2	0	144	▲6
九州	165	▲17	107	5	26	0	18	▲1	14	▲1	7	▲1	337	▲15
国外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-



4-3-2 S級コーチ

S級エリートコーチ制度は、テニスのトレーニング、コーチング、マネジメントの各分野において最新の科学的理論と実践知識に基づき、世界基準の指導力を有する指導者を育成することを目的としている。

S級エリートコーチは前年から25人増えて105人となった。



2025年度カラーボール大会・都道府県別開催大会数

2026.3.30時点

別紙

		レッド		オレンジ		グリーン		イエロー		普及イベント	
		回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	
北海道		県市町村協会									
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)									
		民間									
東北											
北信越	新潟県	県市町村協会									
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)									
		民間									
	長野県	県市町村協会					4	42	4	173	4
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)					4	40			2
		民間					3	68	3	241	20
	富山県	県市町村協会	1	15	2	36	2	68			6
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)									
		民間									
	石川県	県市町村協会									
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)									
		民間									
	福井県	県市町村協会	2	7	2	20	4	30	4	65	7
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)									0
		民間									1
関東	東京都	県市町村協会					2	160	2	175	
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)									
		民間									
	神奈川県	県市町村協会	4	40			5	60	11	212	19
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)									
		民間	8	64	6	42	6	70	4	170	45
	埼玉県	県市町村協会					4	238	7	1076	1
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)					2	60	2	70	1
		民間	3	48			30	657	32	700	3
	千葉県	県市町村協会									
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)									
		民間									
	群馬県	県市町村協会									
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)									
		民間									
	栃木県	県市町村協会					1				4
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)									
		民間									
茨城県	県市町村協会	2	20			2	20	3	30	1	
	他団体(JPTA/JTIF/JLTF)										
	民間										
山梨県	県市町村協会										
	他団体(JPTA/JTIF/JLTF)										
	民間										
東海	静岡県	県市町村協会	14	80	4	60	6	200			22
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)									
		民間	12								12
	岐阜県	県市町村協会	12		6	90	12	240			18
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)					1	24			1
		民間					20	200			5
	愛知県	県市町村協会			1	16	1	16	1	245	1
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)									1
		民間	7	56	27	270	37	592			
三重県	県市町村協会					5	330	1	50	7	
	他団体(JPTA/JTIF/JLTF)									1	
	民間			3	60	8	160	1	30	5	

2025年度カラーボール大会・都道府県別開催大会数

2026.3.30時点

別紙

		レッド		オレンジ		グリーン		イエロー		普及イベント	
		回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	
九州	福岡県	県市町村協会	1	6	3	18	3	39	63	6422	18
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)							12	1600	2
		民間	2	32	2	32	2	32	83	3946	8
	熊本県	県市町村協会	1	25	1	34	1	24	4	100	5
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)									
		民間									1
	大分県	県市町村協会	2	16	4	50	8	240	12	850	6
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)									1
		民間									
	長崎県	県市町村協会			1	24	3	69			2
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)									
		民間									
	佐賀県	県市町村協会	7	526			2	43	2	150	7
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)	1	40							
		民間									
	鹿児島県	県市町村協会					8	200			8
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)									
		民間									2
	宮崎県	県市町村協会	1	5			2	21			4
		他団体(JPTA/JTIF/JLTF)									
		民間	6	56			10	80	10	450	
沖縄県	県市町村協会					6	162	4	522	1	
	他団体(JPTA/JTIF/JLTF)										
	民間										
	県・市町村スポーツ少年団			1	32	2	53			2	
合計		103	1221	85	1087	254	4984	298	18425	704	

※2026年3月30日集計時点の数値を掲載しています。※大会数は都道府県テニス協会が集計把握している分を掲載しております。



令和7年度 テニス環境等実態調査 報告書

令和8年（2026年）3月

発行者 公益財団法人日本テニス協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2 Japan Sport Olympic Square 7階

電話：03-6812-9271

E-mail：mail@jta-tennis.or.jp

URL：<http://www.jta-tennis.or.jp/>

編集 株式会社日本リサーチセンター
